

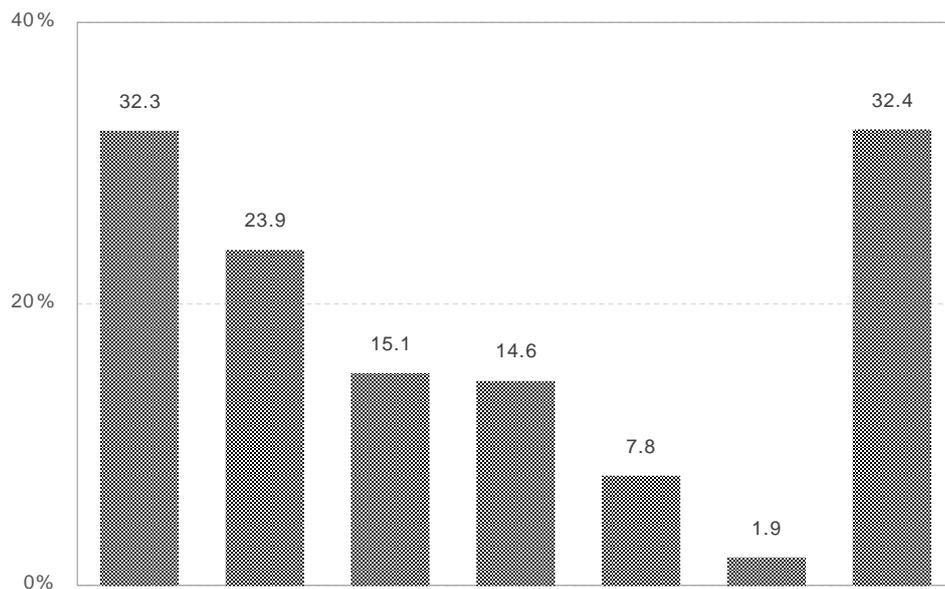
6 社会参加

(1) 日本の未来を良くするための行動への意識

Q31. 日本の未来を良くするために何か行動しようと思っていますか。 [MA]

日本の未来を良くするための行動について、全体では、「どれともいえない」(32.4%)が最も高い。次いで、「仕事や学業をしっかりとやることで社会に貢献したい」(32.3%)、「考えてはいるが、具体的にどのようにすべきかわからない」(23.9%)と続く。

年齢区分別でみると、“15～19歳”は「仕事や学業をしっかりとやることで社会に貢献したい」(39.8%)、「社会的起業・ボランティアなどに参画して直接社会を良くしていきたい」(18.4%)、「寄付やチャリティーなどを通じて社会に貢献していきたい」(17.5%)の3項目が他の年代と比べ最も高く、全体と比較した結果、有意差が認められている。



	n 数	回答内容						
		仕事や学業をしっかりとやることで社会に貢献したい	考えてはいるが、具体的にどのようにすべきかわからない	社会的起業・ボランティアなどに参画して直接社会を良くしていきたい	寄付やチャリティーなどを通じて社会に貢献していきたい	政府や他の人がどうにかしてくれませんか	その他	どれともいえない
全体 + 10%以上 全体 - 10%以下 (属性n=30以上)	10,000	32.3	23.9	15.1	14.6	7.8	1.9	32.4
13～14歳	1,120	35.4	29.6	13.6	10.6	4.5	1.4	30.0
15～19歳	2,903	39.8	24.1	18.4	17.5	8.1	1.9	25.1
20～24歳	2,884	29.6	22.4	14.8	14.2	8.8	2.1	34.8
25～29歳	3,093	26.6	22.9	12.7	13.5	7.6	2.0	37.7

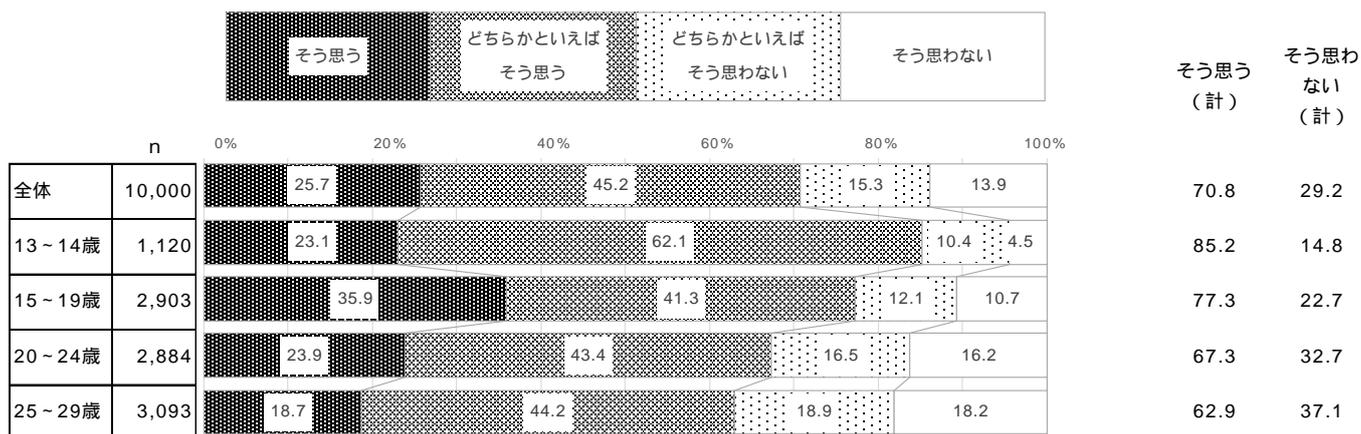
(2) 社会のために役立ちたいか

Q32. 「社会のために役立つことをしたい」と思いますか。 [SA]

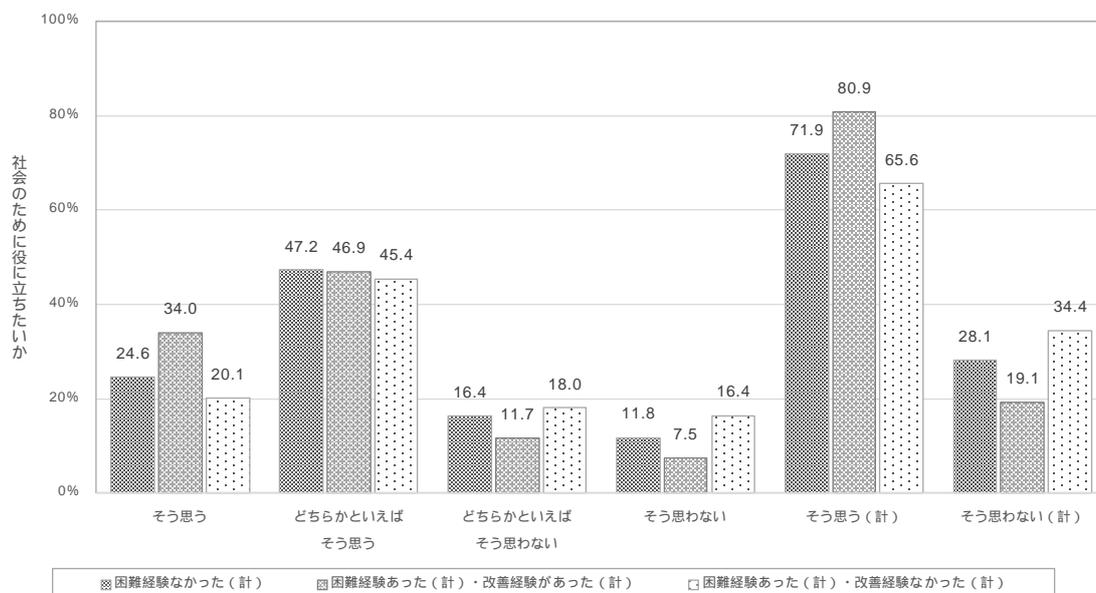
社会のために役立つことをしたいかどうかについて、全体では、「どちらかといえばそう思う」(45.2%)が最も高く、次いで、「そう思う」(25.7%)が続き、「そう思う(計)」は70.8%だった。

年齢区分別でみると、「そう思う」は「15~19歳」(35.9%)が、全体と比べ10ポイント以上高く、有意差も認められている。「どちらかといえばそう思う」は「13~14歳」(62.1%)が、全体と比べ15ポイント以上高く、有意差も認められている。

一方、「そう思わない(計)」は、年代が上がるにつれて、高くなっている。



Q32.の回答について、社会生活や日常生活を円滑に送ることができなかった経験(以下「困難経験」という)(Q5) また、困難改善経験(Q9-1)の別にもみると、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合について、困難経験がなかった者¹が71.9%、困難改善経験のあった者²が80.9%、困難改善経験のなかった者³が65.6%となり、困難改善経験のあった者が他の者に比べて、社会のために役立つことをしたいと回答している割合が高くなっている。



¹ Q5で「なかった」又は「どちらかといえばなかった」と回答した者
² Q9-1で「あった」又は「どちらかといえばあった」と回答した者
³ Q9-1で「なかった」又は「どちらかといえばなかった」と回答した者

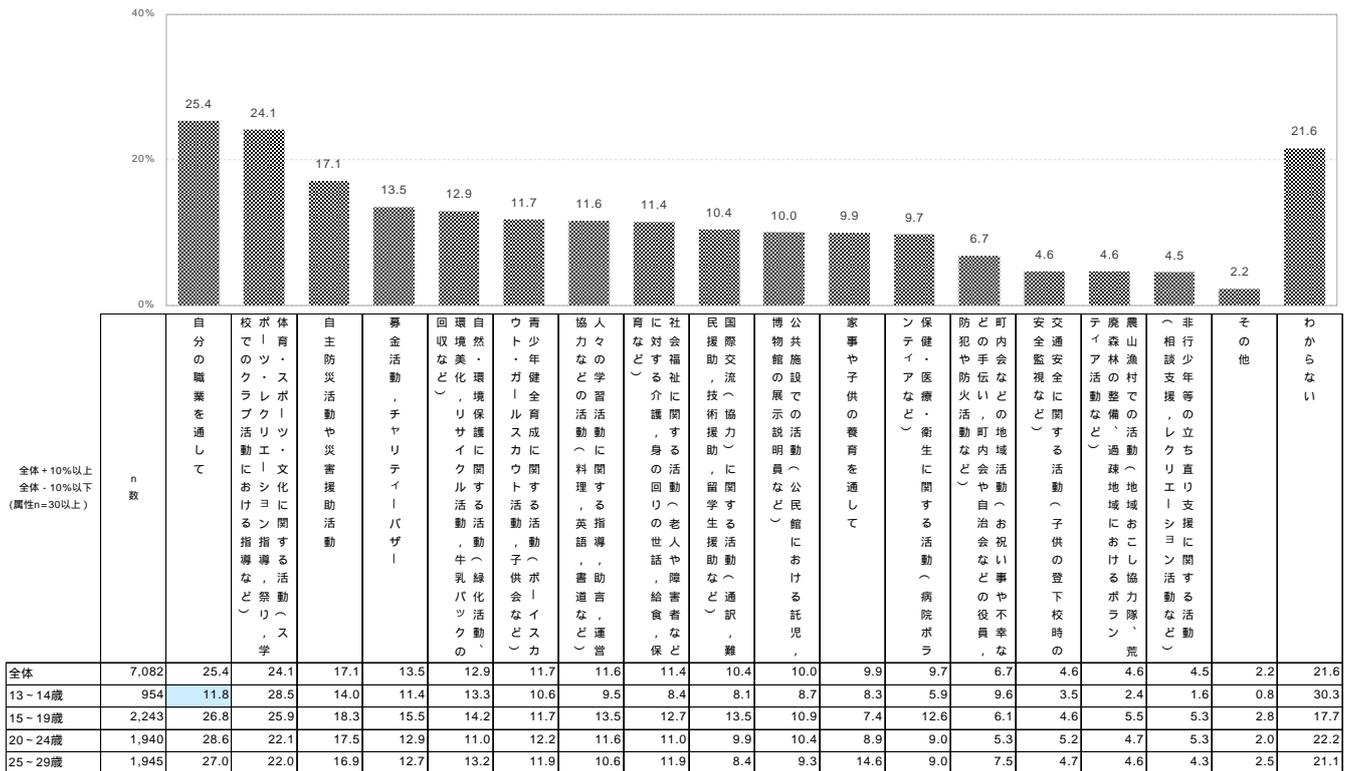
(3) 社会貢献の手段

Q33. 具体的に何を通じて社会のために役立ちたいと考えていますか。[MA]

社会に役立つための具体的な手段として、全体では、「自分の職業を通して」(25.4%)が最も高い。次いで、「体育・スポーツ・文化に関する活動」(24.1%)、「わからない」(21.6%)、「自主防災活動や災害活動支援」(17.1%)が続く。

年齢区分別でみると、「体育・スポーツ・文化に関する活動」は、「13~14歳」(28.5%)が他の年代と比べ最も高く、有意差も認められている。また、年代が上がるにつれて、低くなっている。

「自分の職業を通して」は「20~24歳」(28.6%)が他の年代と比べ最も高く、全体と比較した結果、有意差が認められている。



Q32で「そう思う」「どちらかといえばそう思う」との回答者のみ回答

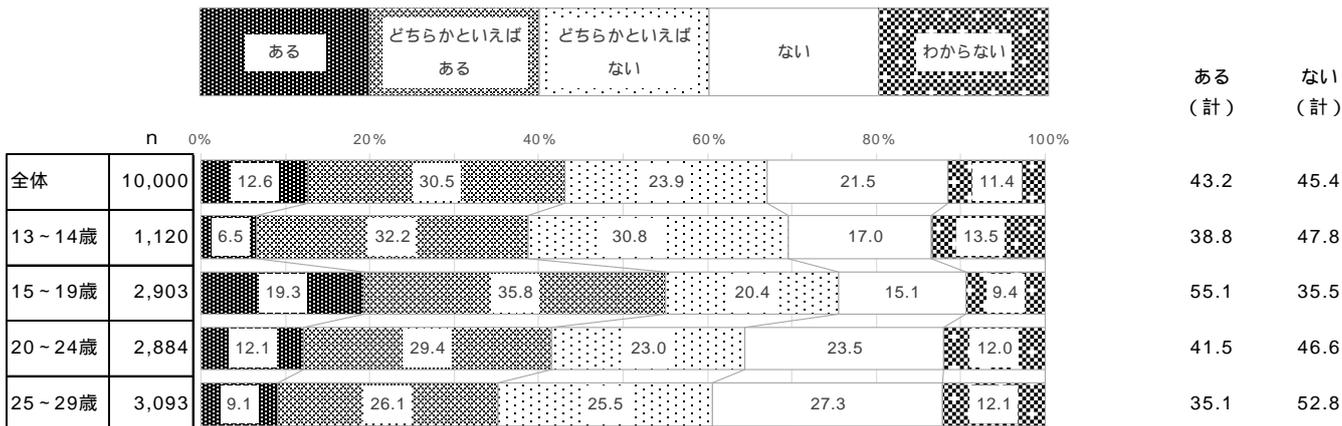
(4) ボランティア活動に対する興味

Q34. あなたはボランティア活動に興味がありますか。[SA]

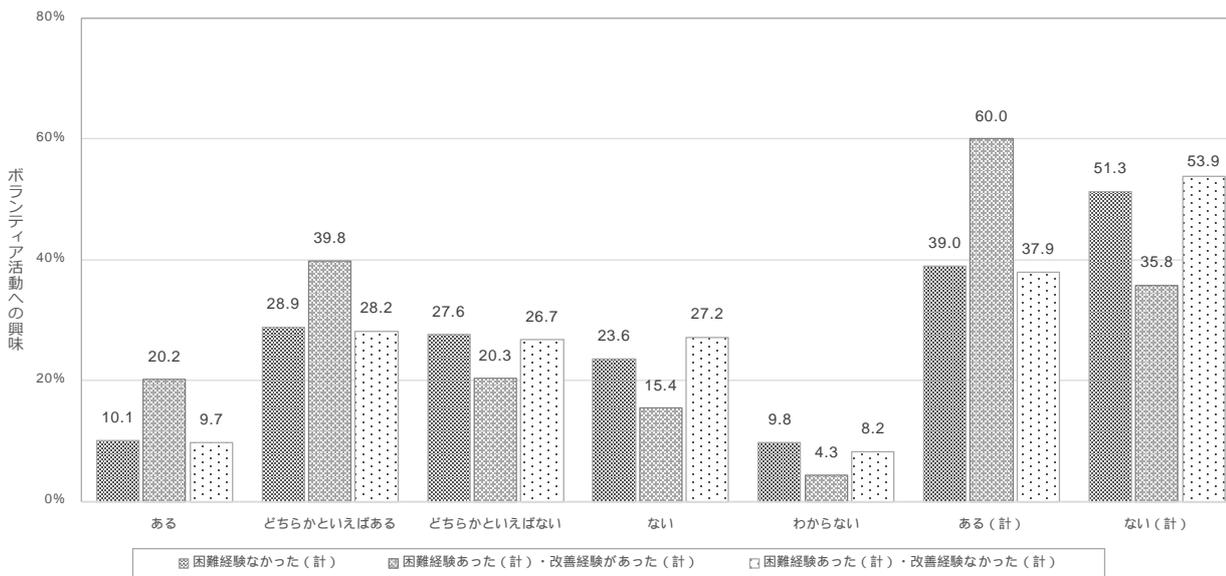
ボランティア活動への興味について、全体で最も高いのは「どちらかといえばある」(30.5%)。次いで、「どちらかといえばない」(23.9%)が続く。また、「ある(計)」は43.2%、「ない(計)」は45.4%となっている。

年齢区分別でみると、「ある(計)」は「15~19歳」(55.1%)が、全体と比べ10ポイント以上高く、有意差も認められている。

一方、「ない(計)」は「25~29歳」(52.8%)が、他の年代と比べ最も高く、全体と比較した結果、有意差が認められている。



Q34.の回答について、困難経験(Q5) また、困難改善経験(Q9-1)の別にみると、「そう思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した割合について、困難経験がなかった者⁴が39.0%、困難改善経験のあった者⁵が60.0%、困難改善経験のなかった者⁶が37.9%となり、困難改善経験のあった者が他の者に比べて、ボランティア活動への興味があると回答している割合が高くなっている。



⁴ Q5で「なかった」又は「どちらかといえばなかった」と回答した者
⁵ Q9-1で「あった」又は「どちらかといえばあった」と回答した者
⁶ Q9-1で「なかった」又は「どちらかといえばなかった」と回答した者

(5) ボランティア活動に興味がある理由

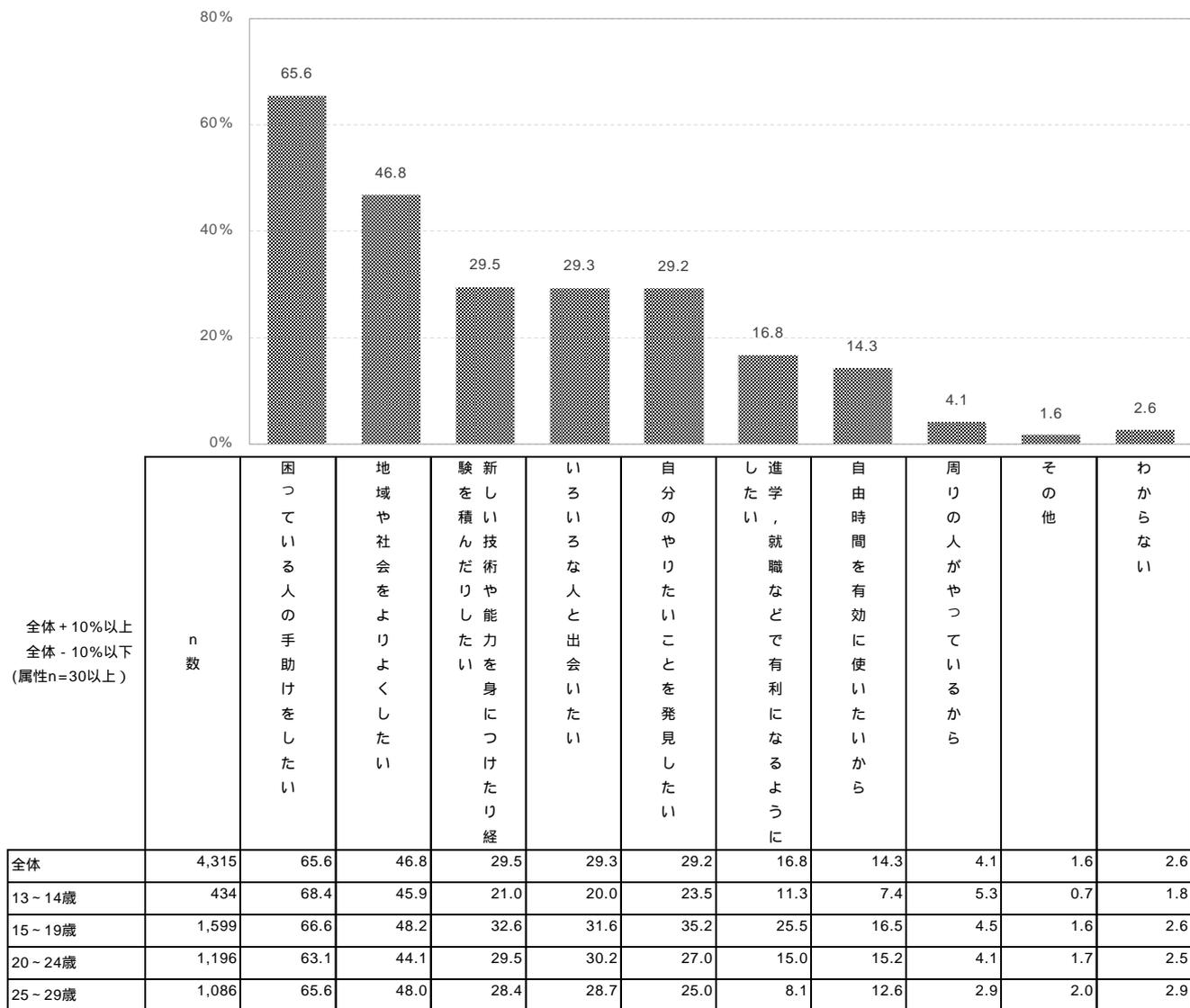
Q35. あなたがボランティア活動に興味がある「ある」のは、どのような気持ちからですか。[MA]

ボランティア活動に興味がある気持ちとして、全体では、「困っている人の手助けをしたい」(65.6%)が最も高い。次いで、「地域や社会をよりよくしたい」(46.8%)、「新しい技術や能力を身につけたり経験を積んだりしたい」(29.5%)が続く。

年齢区分別でみると、「15～19歳」は「新しい技術や能力を身につけたり経験を積んだりしたい」(32.6%)、「自分のやりたいことを発見したい」(35.2%)、「進学、就職などで有利になるようにしたい」(25.5%)、「自由時間を有効に使いたいから」(16.5%)の4項目が他の年代と比べ最も高く、全体と比較した結果、有意差が認められた。

過去の調査と比較すると、「困っている人の手助けをしたい」「周りの人がやっているから」以外の項目においては減少しており、「地域や社会をよりよくしたい」は8.0ポイント減少している。

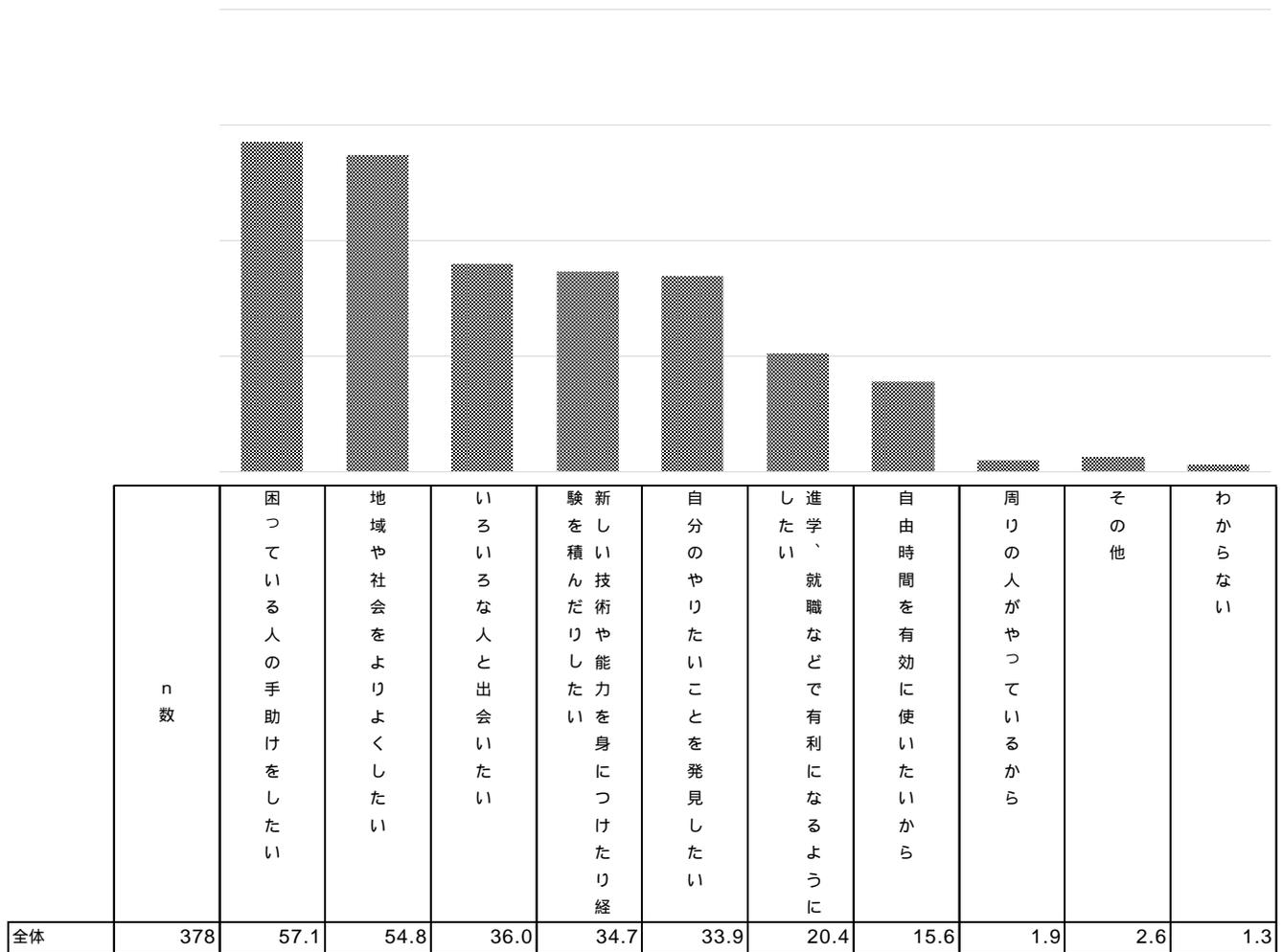
一方、「困っている人の手助けをしたい」は8.5ポイント増加している。



Q34で「ある」「どちらかといえばある」との回答者のみ回答

<平成 30 年度調査結果>

Q. あなたがボランティア活動に興味があるのは、どのような気持ちからですか。[MA]



	n 数	困っている人の助けをしたい	地域や社会をよりよくしたい	いろいろな人と出会いたい	新しい技術や能力を身につけたり経験を積んだりしたい	自分のやりたいことを発見したい	進学、就職などで有利になるようにしたい	自由時間を有効に使いたいから	周りの人がやっているから	その他	わからない
全体	378	57.1	54.8	36.0	34.7	33.9	20.4	15.6	1.9	2.6	1.3